ワイルドスピード

日産スカイライン GT-R (R34)

NISSAN SKYLINE GT-R (R34)

ブライアンモデル

1



NISSAN
MOTOR CORPORATION
OFFICIAL LICENSED PRODUCT
81-30123-65095

DeAgostini
COLLECTIBLES

© Universal City Studios LLC.
All Rights Reserved.

UNIVERSAL

ワイルドスピード

日産スカイライン GT-R (R34)

NISSAN SKYLINE GT-R (R34)

ブライアンモデル

CONTENTS

日産スカイラインGT-R

『ワイルド・スピードX2』によって世界にその存在を知らしめた日産スカイラインGT-R …… 1

レースに勝つことを目的につくられた、初代の日産スカイライン2000GT-Rの誕生から30年余り。高スペックでパワーアップしたGT-R（R34）は日本市場を出てスクリーンの主役になった。

『ワイルド・スピード』ストーリーと舞台裏

GT-Rを駆る男 …… 5

シリーズの伝説になった男、ブライアン・オコナーが『ワイルド・スピードX2』で、あの日産スカイラインGT-R（R34）に乗って帰ってきた。

GT-R（R34）組みたてガイド

フロントバンパーを組み立てる …… 7

バンパーユニットにアッパーグリル、エンブレム、ウインカーランプを取り付ける。







週刊『ワイルド・スピード 日産スカイラインGT-R（R34）』 第1号

［発行日］2023年9月26日
［発　行］株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0054　東京都中央区勝どき5-2-15　EDGE勝どき
［発行人］谷 健二
［編集人］加藤美香子
［商品開発ユニット］酒井達志、清水英利子、加藤美香子
［編集協力］合同会社けんじん社
［デザイン］鈴木真樹
［印刷］株式会社大丸グラフィックス
［校正］株式会社ぷれす
［写真協力］NBCUniversal Archive

© Universal City Studios LLC.
All Rights Reserved.

©2023 K.K. DeAgostini Japan
All Rights Reserved.

©2023 Editorial Planeta DeAgostini, S.A.U.

NISSAN MOTOR CORPORATION OFFICIAL LICENSED PRODUCT
81-30123-85095

Nissan Motor Co., Ltd.trademarks, designs, copyrights and/or other intellectual property rights are used under license.

※本誌の記事、写真、絵画等を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。
※本誌は都合により、刊行サイクルが変更されたり、休刊となることがありますので、予めご了承ください。
※本誌は号によりパッケージの形態・デザインが異なる場合があります。
※本誌に掲載している商品のデザイン・仕様等は、実際にご提供するものと一部異なる場合がございます。

■お客様サポートのご案内

● WEB上でも、お客様からのよくある質問と回答を掲載しています。

デアゴ　よくある質問　検索

● メールでのお問合せ

※Webで会員登録が必要です。

https://deagostini.jp/support/mail

■お客様サポートセンター

（本誌関連の一般的な質問を承ります）

TEL 0570-008-109（月～金10:00～16:00　土日祝日除く）

※間違い電話が大変多くなっております。お電話の際は電話番号をよくお確かめください。

■定期購読のご案内

週刊『ワイルド・スピード 日産スカイラインGT-R（R34）』は毎週月曜日発売のマガジンシリーズです（一部地域を除く）。シリーズは全110号を予定しています。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. インターネットで
   https://deagostini.jp/wsr/
   ※スマートフォンからも同じアドレスでアクセスできます（24時間受付）。
2. お客様受注センターに電話またはファクスで
   TEL:0120-300-851（10:00～16:00　年末年始を除く）
   FAX:0120-834-353（定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付）
3. 定期購読申し込み用紙を郵送
   「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合はお客様受注センターまでご連絡ください。

※最寄りの書店でも定期購読または予約購読をご利用いただけます。

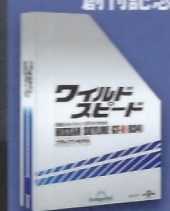
■バックナンバー注文のご案内

本誌のバックナンバーは定期購読と同じく、弊社WEBサイトかお電話、もしくはお近くの書店で承っております。※在庫に限りがございますので、予めご了承ください。

お買い忘れなく安心！発売日をメールでお知らせします！　ご登録ください
発売日 お知らせメール♪
https://deagostini.jp/oshirase/wsr

本誌の最新情報をCheck!
デアゴ ワイスピ R34　検索

特製 マガジンケース
創刊記念として第6号と同時に特別価格で発売予定!
特価価格は2024年2月末日まで!!
詳しくは弊社webサイト、もしくは「定期購読申込み用紙」をご覧ください。
※マガジンケースは弊社からの直送専用商品となります。



【個人情報の取扱いについて】※お申し込み前に下記を必ずお読みください。
ご提供いただく個人情報は、商品の発送、アフターサービス・新商品・サービス等の各種ご案内の提供、各種商品情報やお問い合わせへの回答、および商品開発およびサービス改善のためのデータ分析のみに利用します。お客様の個人情報は弊社と同等以上の管理体制を有している委託先へ業務委託、法令等の規定に基づく場合を除き、第三者提供をすることはありません。業務委託のうちクレジットカード決済に関しては、決済を行うために、弊社と同等以上の管理体制を有する決済処理サービス会社に委託しております。個人情報のご提供はお客様の任意ですが、項目に未記入部分がある場合、お申し込みの手続きがとれない場合もあります。個人情報の利用目的の通知、開示・内容の訂正・追加・削除・利用の停止・消去、第三者への提供の停止および第三者提供記録の開示をご希望される場合は下記にお問い合わせ願います。
個人情報保護相談受付窓口（03 - 6730 - 3793
土日、祝日、年末年始、夏季休暇を除く10:00 ～ 16:00）
株式会社デアゴスティーニ・ジャパン　コンプライアンス担当
弊社の個人情報、公表事項も合わせてご覧下さい。
https://deagostini.jp/security/
※公表事項は弊社の事業内容及び提供するサービスの変更により改定される事があります。

プライバシーマーク 10190770(09)



歴代のスカイラインGT-Rは、最新技術を満載してレースに勝つために生まれてきた

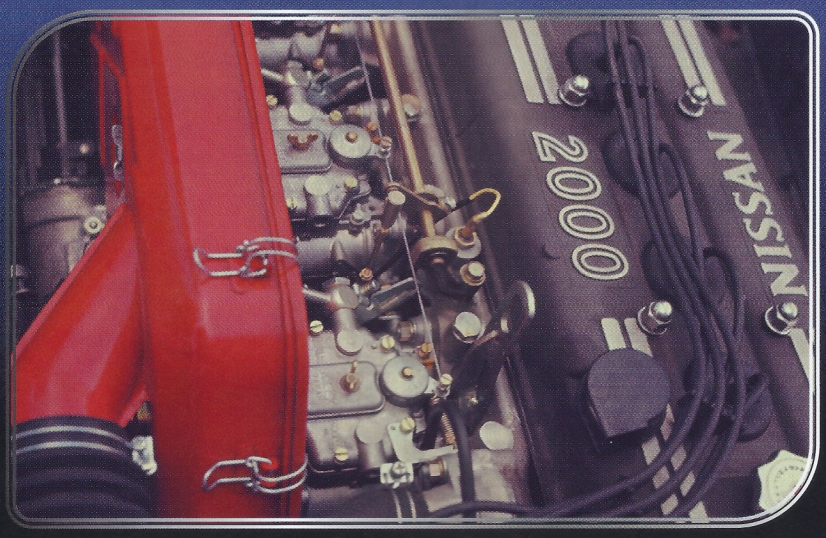
『ワイルド・スピードX2』によって世界にその存在を知らしめた日産スカイラインGT-R

1969年、3代目「スカイライン」をベースにGT-Rのバッジをつけた最初の「スカイライン“2000GT-R”」（PGC10）が誕生。そのクルマはレースに勝つために作られた特別な存在だった。電子制御トルクスプリット4WDと2.6ℓツインターボエンジンを搭載した3代目スカイラインGT-R（R32）が誕生したのは1989年。翌年から全日本ツーリングカー選手権などレースシーンを支配した。さらに数十年後、5代目スカイラインGT-R（R34）はスクリーンの主役となった。

日本市場専用モデルだった日産スカイラインGT-R（R34）の存在を世界に向けて強烈に印象付けたきっかけが、『ワイルド・スピード』シリーズ第2作、2003年公開の映画『ワイルド・スピードX2』（原題: 2 Fast 2 Furious）だ。序盤のストリートレースのエピソードで、主人公ブライアン・オコナー（ポール・ウォーカー）の愛車として登場。トヨタ・スープラ（A80型）、マツダ・RX-7（FS3S型）、ホンダ・S2000（AP1型）など、高度にチューニングされたライバルを相手に、激しい走りと高性能ぶりを披露し、一躍カーマニアの心をつかんだ。

この映画「ワイルド・スピード」シリーズから、アメリカでJDMブームが起こる。JDMとはJapanese Domestic Marketの頭文字をとったもので、日本国内市場のことを指す。転じてアメリカで販売された日本車を日本国内仕様のようにカスタマイズしたりチューニングしたりすることをJDMと呼び、カーマニアの間で流行するようになったのだ。日本から輸入したチューニングパーツなどでパワーアップし、日本のナンバープレートのレプリカを取り付

『ワイルド・スピードX2』によって世界にその存在を知らしめた日産スカイラインGT-R



←プロトタイプスポーツカー「ニッサンR380」のエンジンをベースに再設計したS20型エンジンを初代スカイライン“2000GT-R”（PGC10型）に搭載

けるクルマまで現れた。

映画のストリートレースのシーンを見てわかるように、ライバルたちのクルマは日本車でもアメリカ仕様のため左ハンドルなのだが、シルバーのボディにブルーのバイナルグラフィックスを施したブライアンのスカイラインGT-R（R34）は右ハンドル仕様。じつは、日産が右ハンドルのGT-R（R34）を少数ながらイギリスに輸出したことがあったが、その他の国には正規輸出されなかったため左ハンドル仕様は存在しない。

アメリカでは右ハンドルのクルマを公道で走らせるのは原則不可で、右ハンドルのまま登録するのは非常に難しいといわれている。しかし、少数のGT-R（R34）が熱心な業者の手で米国運輸局の定める衝突試験や排出ガス規制など所定の要件をパスし、合法的に輸入された。そのため、GT-R（R34）というクルマは、アメリカのカーマニアにとって、興味をそそる非常にレアな“スーパーカー”なのだ。

純レーシングカーのエンジンを再設計して4ドアセダンに搭載

スカイラインGT-Rの歴史は、輝かしい勝利のストーリーに満ちている。日産に“スカイラインGT-R”というモデルが誕生したのは、じつに半世紀以上も前の1969年2月のこと。ツーリングカーレース用の必勝マシンとして、4ドアセダンにプロトタイプスポーツカーの2ℓ直列6気筒DOHC 4バルブエンジンを市販車用に再設計したS20型エンジン（160ps）を搭載したスカイライン"2000GT-R"（PGC10型）が登場。この初代スカイラインGT-Rの威力は凄まじく、レースで連戦連勝を重ねた。1970年10月には、より運動性能の高い2ドアハードトップにボディを変更した"2000GT-R"（KPGC10型）が登場。その後、1973年1月には2代目"2000GT-R"（KPGC110型）にフルモデルチェンジしたが、わずか200台程度の生産台数に終わり、いわゆる第一世代GT-Rは幕を閉じた。

それから16年。スカイラインGT-Rは1989年8月にR32型として復活する。スカイラインGTシリーズ伝統の直列6気筒エンジンは、2.6ℓ・DOHC4バルブエンジンにツインセラミックターボを組み合わせたRB26DETT型エンジン（280ps）に進化。さらにシャシーには、“4”がキーワードになる3つの最新技術が搭載された。従来モデルから足まわりを一新した「4輪マルチリンクサスペンション」と「4輪操舵システム」であるSUPER HICASを開発。そして、現在のNISSAN GT-Rの基幹技



術ともなった「電子制御トルクスプリット4WD」の採用だ。

この電子制御トルクスプリット4WDはフルタイム4WDではなく、基本的には後輪駆動をベースにし、走行条件に応じて前後輪にトルクを0:100から50:50まで自動的に無段階で配分するシステム。後輪の駆動トルクの増大で後輪のスリップ量が大きくなると、前輪にも駆動トルクの伝達が行われる。それまでの4WDでは犠牲になりがちだったコーナリング時のハンドリング性能と4WDならではのトラクション性能を両立した。



↑ 1970年のマイナーチェンジでホイールベースを70mm短縮した2ドアハードトップボディのスカイライン"2000GT-R"（KPGC10型）

グループA仕様のGT-Rがスパ・フランコルシャンでも優勝

スカイラインGT-R（R32）は、「究極のロードゴーイングカー」であるとともに、「グループAレース必勝マシン」でもあった。1990年3月に開催された全日本ツーリングカー選手権の開幕戦でデビューウィン。その後、29連勝という大記録を打ち立てた。さらに、GT-R（R32）は海外のグループAレースでも活躍。1990年からオーストラリア・ツーリングカー選手権に参戦し、91年、92年の2年連続でシリーズチャンピオンに輝いた。1990年のマカオ



↑ 第二世代最後のスカイラインGT-R（R34）。トルクスプリット4WDシステムなどをより高度に進化させ、新たな空力パーツを採用した

『ワイルド・スピードX2』によって世界にその存在を知らしめた日産スカイラインGT-R



↑1973年にフルモデルチェンジした2代目スカイライン"2000GT-R"（KPGC110型）は、わずか200台程度の生産で終わった幻のモデル

GP・ギアレースでもGT-R（R32）が圧勝。その速さから、翌91年から大量のハンディキャップウェイトを積むハメになったほど。1990年のスパ・フランコルシャン24時間レースでもGT-R（R32）がグループNクラスで優勝し、翌91年は総合優勝とグループN優勝を飾り、スカイラインを正規輸出していないヨーロッパでもその存在が知られるようになった。

スカイラインGT-Rは1995年1月にフルモデルチェンジし、R33型に進化。全日本GT選手権で活躍するとともに、1995年にはNISMO GT-R LM（R33）がル・マン24時間レースに参戦し、初出場ながら10位で完走した。また、GT-R（R33）は少数がイギリスに正式に輸出され、F1ドライバーなどセレブがオーナーとなり話題となった。

そして、第二世代GT-Rの集大成ともいえるR34型が1999年1月にデビューする。RB26DETT型エンジン、電子制御トルクスプリット4WDなどの基本メカニズムはR32型、R33型と共通するが、ドイツ・ゲトラグ社製6速マニュアルトランスミッションを初採用。さらに、剛性を高めたボディや前後ディフューザー装備などにより空力性能が向上し、速さにより磨きがかかった。

リアルの世界でヨーロッパの名だたるスーパーカーを脅かすほどの高性能を身に付けたGT-R（R34）は、ブライアン・オコナーの愛車となってスクリーンへ進出することになる。



→1990年にサーキットにデビューしたスカイラインGT-R（R32）は、グループA規定の全日本ツーリングカー選手権で負けなしの29連勝という大記録を打ち立てた

GT-Rを駆る男

第1作『ワイルド・スピード』（2001年）のメガヒットに続いて、シリーズは第2作で早くも最高潮に沸き上がる瞬間を迎えた。伝説になった男、ブライアン・オコナーが帰ってきたのだ。しかも今回は、あの日産スカイラインGT-R（R34）に乗って登場する。



↑ 日産スカイラインGT-R（R34）がぎりぎりのところでレースに飛び入り参加し、ストリートレースに集まったファンたちはそのハンドルを握る謎のドライバーに興味津々だ

2003年6月3日、ハリウッドで『ワイルド・スピードX2』（原題：2 Fast 2 Furious）が封切られた。シリーズ第1作で度肝を抜かれたファンたちの待望の新作だ。今やユニバーサル・スタジオでも特に人気作となった“ワイスピ”シリーズだが、その第1作では謎がいくつも残されていた。ドミニク・トレットのファミリーはどうなったのか。ドミニクは法と秩序の網から逃れられたのか。そして何よりも、ブライアン・オコナーはどこへ行ってしまったのか。

『ワイルド・スピードX2』で、観客は冒頭から意表を突かれる。アクションの舞台が、ロサンゼルスからマイアミに移っているからだ。これは新章の幕開けなのか。それとも、圧倒的なスピードで駆け抜けるスポーツカーで観客を高揚させるという共通点があるだけで、まったく別のストーリーなのか。

最初にスクリーンに映し出されるのは、夜のマイアミのストリートシーンだ。若者の集団が、これから開かれる特別なストリートレース

の準備に走り回っている。レースの主催者はテズ・パーカー。アフロヘアのメカニックで、のちにシリーズの主要メンバーのひとりになる。そのテズが開いたショーを楽しもうと、何十人ものスピードマニアが、テズのガレージにほど近いダウンタウンの一角に集っている。すご腕ドライバーの走りを見物し、エンジンの雄叫びを満喫して、ニトロやタイヤが路面に焦げつくにおいに酔いしれようというのだ。

4人目のドライバー

だが、テズはたちまち厄介な問題を抱える。4台1組で出走するレースという規定にもかかわらず、ドライバーが3人しか集まっていないのだ。足りないひとりをすぐに見つけなければならない。しかし、テズはあわてることなく、誰かに携帯で電話をかける。暗い寝室に浮かび上がった男が電話に出ると、すかさずこう問いかける。「よお、今夜走らないか？ 4分で来てくれ」。暗がりにいた男には、このひと言で十分だった。男はすぐにアパートを出て車に飛び乗る。といっても、ただの車ではない。伝説の日産スカイラインGT-R(R34)だ。そのGT-Rは、エンジン音を轟かせ、車体の下部からまばゆいブルーのネオンライトの輝きを放ちながら夜の街を疾走する。ブルーのストライプをあしらったシルバーのボディが、街灯を照り返したかと思う間もなく、GT-Rは目的地に到着する。ほかのドライバーはその様子を見守っていたが、にわかに表情が険しくなる。ハンドルを握っているのが誰か、全員が瞬時に悟った。それはGT-Rを駆る男、ブライアン・オコナーだった。

ブライアンという男

最近のアクション映画の世界でも、ブライアン・オコナーほどファンの心に深い印象を残したヒーローは、そう多くないだろう。理由はおそらく、ブライアンがどこにでもいそうな普通の男を代表する数少ない例だからだ。そして、その普通の男が正義や義理、友情といった価値観を何よりも重んじる姿勢を貫いているからだ。

“ワイスピ”シリーズのファンなら知っているとおり、ブライアンは正しいことを遂行するために全力を尽くすのだが、そこには時としてとてつもない危険が伴う。ブライアンは自分なりの規範に従って行動し、人からどう思われようとまったく意に介さない。そして、常に正しいことと間違ったことを見極める。劇中でもそれ以外でも、ブライアンは周囲から高く評価されるようになる。ハンドルを握り、運命に向かってアクセルを踏みきるその姿が称賛を集めるのだ。

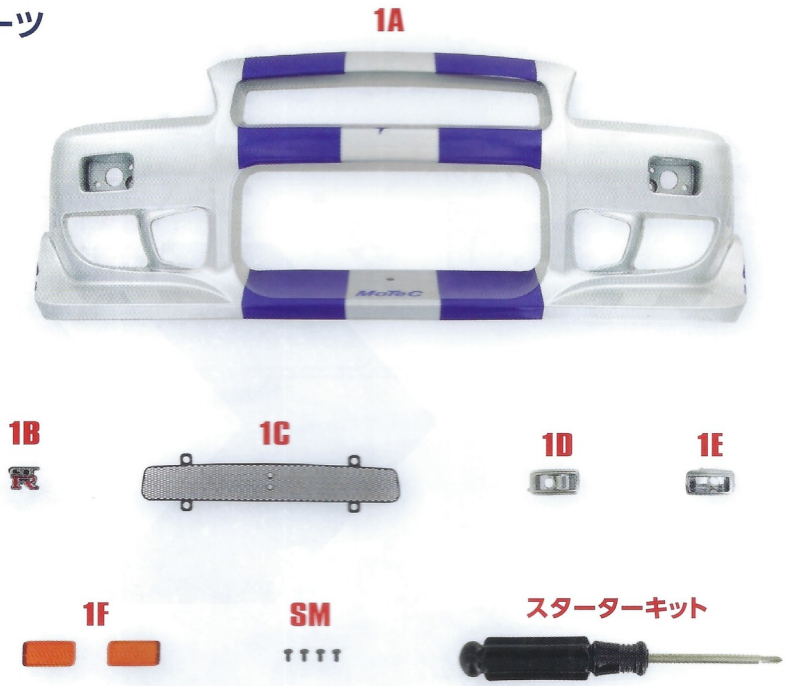
↓レースに参加するためにマイアミの街を疾走する日産スカイラインGT-R(R34)



STAGE 1
フロントバンパーを組み立てる

今号では、バンパーユニットにアッパーグリル、エンブレム、ウィンカーランプを取り付けよう。

今号のパーツ



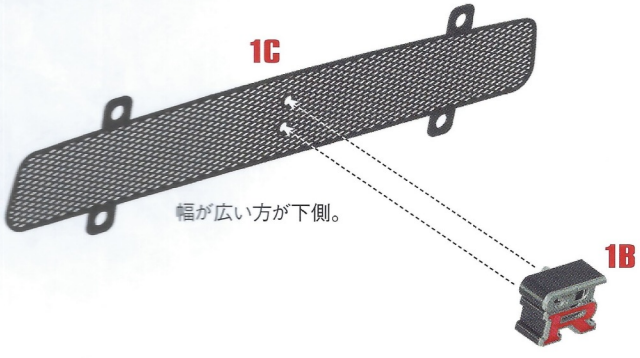
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※写真のネジには、予備数は含まれておりません。

1A フロントバンパー
1B GT-R エンブレム
1C フロントグリル
1D フロント・ウインカー・ハウジング [L]
1E フロント・ウインカー・ハウジング[R]
1F フロント・ウインカーレンズ ×2
SM ネジ(1.7×3㎜) ×4 +予備
スターターキット プラスドライバー(0番)

1.01

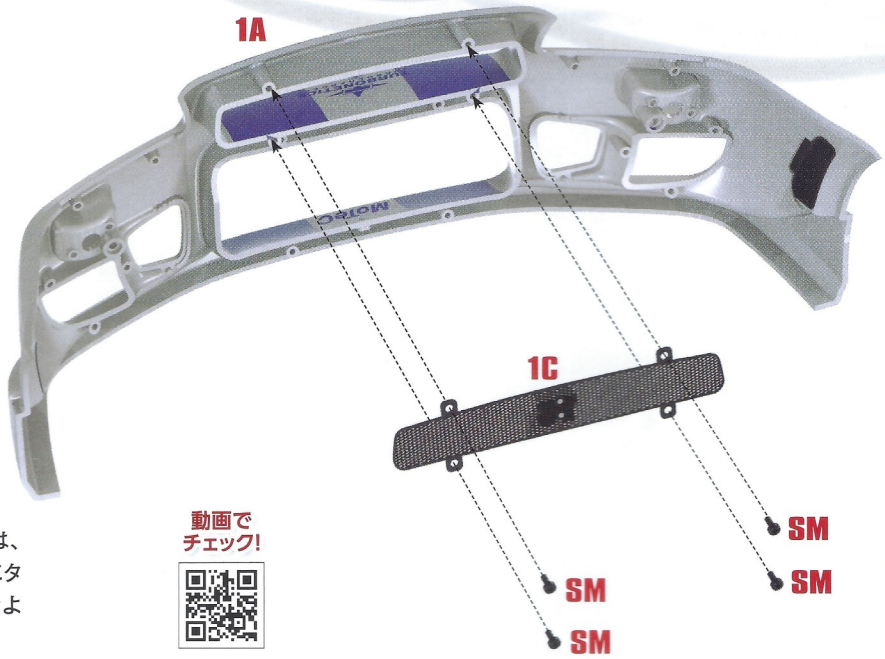
フロントグリル(1C)中央にある2つの穴にGT-Rエンブレム(1B)をしっかりとはめ込む。

フロントグリル(1C)のパーツに裏表はない。
また、パーツには上下があるので注意しよう。



フロントバンパーを組み立てる

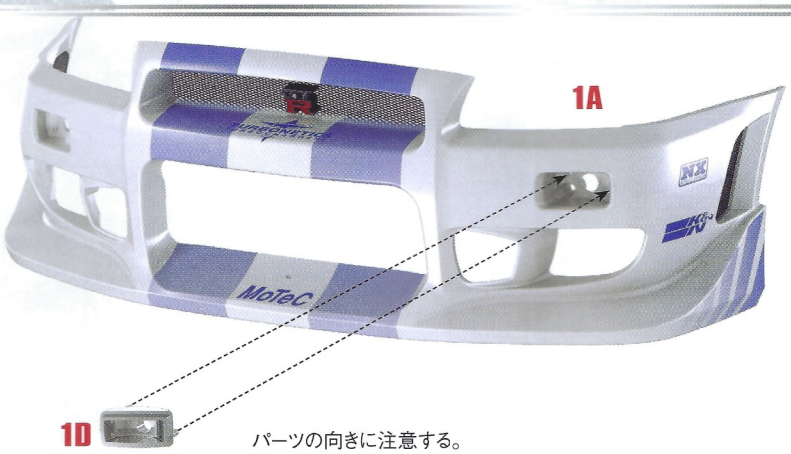
1.02 1Cを、フロントバンパー1Aの内側から、バンパー上部の開口部に合わせ、図のように4か所をプラスドライバー(0番)を用いてSMのネジで固定する。



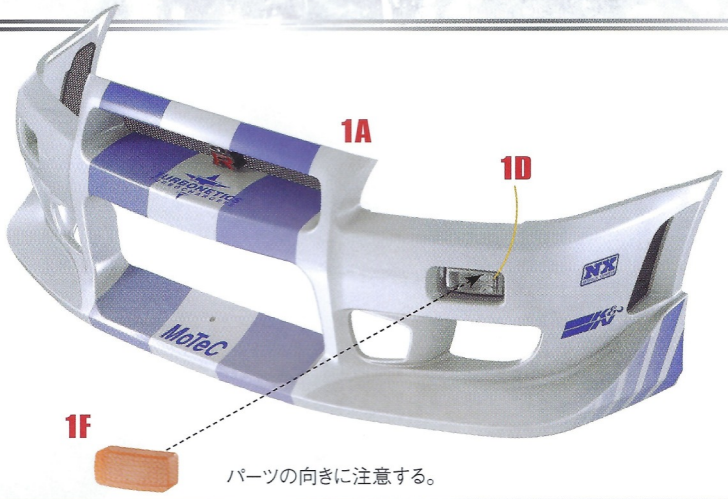
ワンポイントアドバイス
1Cを1Aにネジ止めする際には、パーツが傷つかないよう、下にタオルなどの柔らかい布を敷くとよいだろう。

動画でチェック!

1.03 フロントウインカーハウジング[L](1D)を1Aの左上の窪みに入れる。



パーツの向きに注意する。



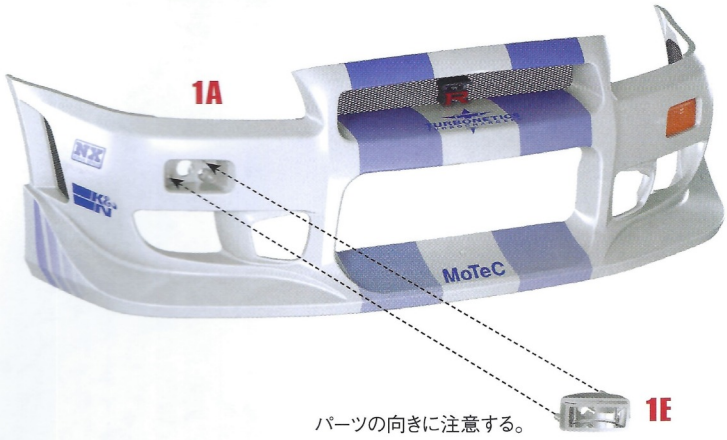
パーツの向きに注意する。

1.04 平らな面を外側に向けたフロント・ウインカーレンズ(1F)を1Dの上にかぶせ、カチッというまで押してはめ込む。

1Fは2個とも同じパーツだが、組み立てる際は、左右の向きがある。ウインカーハウジングにぴったりはまるように取り付ける。

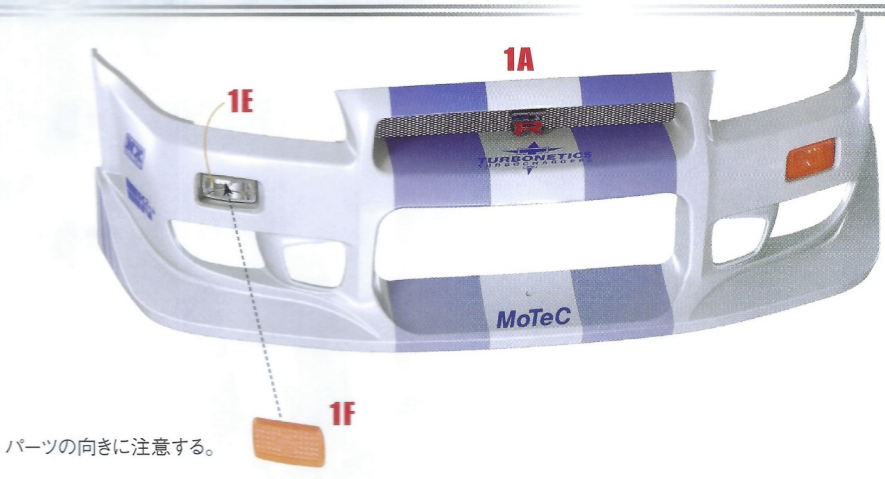
1.05

フロントウインカーハウジング[R](1E)を1Aの右上の窪みに取り付ける。



1.06

もう1つの1Fを、平らな面を外側に向け、1Eにかぶせて、カチッというまで押してはめ込む。



今号の完成図

今号ではスカイラインの顔となるフロントバンパーにアイコンとも呼べる“GT-R”のエンブレムを取り付けた。スポーティーさを感じるバンパーの造形からは、スカイラインGT-R(R34)の迫力の一端が感じられるだろう。



ワイルドスピード
日産スカイライン GT-R (R34)
NISSAN SKYLINE GT-R (R34)
ブライアンモデル

今号の内容とパーツ

日産スカイラインGT-R

「ワイルド・スピードX2」によって世界にその存在を知らしめた日産・スカイラインGT-R

レースに勝つことを目的につくられた、初代の日産・スカイラインの誕生から30年余り。高スペックでパワーアップしたR34GT-Rは『ワイルド・スピードX2』の主役になった。



『ワイルド・スピード』ストーリーと舞台裏

GT-Rを駆る男

シリーズの伝説になった男、ブライアン・オコナーが『ワイルド・スピードX2』で、あの日産スカイラインGT-R(R34)に乗って帰ってきた。



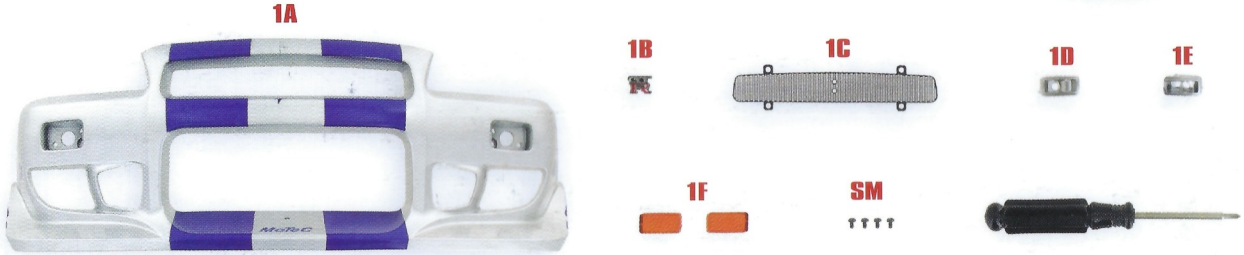
GT-R(R34) 組み立てガイド

フロントバンパーを組み立てる

バンパーユニットにアッパーグリル、エンブレム、ウインカーランプを取り付ける。



今号のパーツ



- 1A フロントバンパー
- 1B GT-R エンブレム
- 1C フロントグリル
- 1D フロント・ウインカー・ハウジング [L]
- 1E フロント・ウインカー・ハウジング[R]
- 1F フロント・ウインカーレンズ ×2
- SM ネジ(1.7×3㎜)×4 +予備
  プラスドライバー(0番)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。 ※写真のネジには、予備数は含まれておりません。

次号予告

※地域によって発売日がことなる場合があります。※表紙のデザインや付録のパーツは変更になる場合があります。ご了承ください。

第2号
9月19日(火)発売
価格 1,999円(10%税込)



日産スカイラインGT-R

“見た目だけのデザインはいらない” GT-Rの強靭なボディ

『ワイルド・スピード』ストーリーと舞台裏

ブライアンが見込んだ名車、—日産スカイラインGT-R

GT-R(R34) 組み立てガイド

右 フロントタイヤを組み立てる

次号パーツ

